

◆シャトル 【飛び杼（とびひ）】



シャトルの事を日本語では飛び杼（トビヒ）とも言います。スペース・シャトルの語源にもなったシャトルです。経糸（タテイト）の間を行ったり来たりするので、宇宙と地球を往復する姿になぞらえたと思われます。

織物は非常に長い間このシャトルを使って生産されてきました。最初は手で（手機）、次に足を使ったり（足踏織機）、産業革命で蒸気機関を使ったり、後にモーター（電力）に変わりました。（動力を使ったものを「力織機（リキシヨッキ）」と言います）

それに対し、水や空気で緯糸を飛ばしたり、長い棒で緯糸を引っ張ってくるような、シャトルレス織機が発明されました。

世界的に見ても現代の織物生産はほとんどがシャトルを使用しないシャトル・レス織機で生産されており、牛首紬の力織機(たまいと機)は、動力を使用するといえども、シャトル織機の形体をとっているため、産業界の区分・認識としては手織りの範疇にあるとも言えます。